

ビワズトピックス

セタシジミが豊かに生息できる瀬田川を。 《瀬田川環境整備事業》

建 設省琵琶湖工事事務所では、学術的にも重要な琵琶湖固有種のセタシジミを瀬田川によびもどすために、セタシジミ着底床試験地設置工事を実施しています。昨年までの調査結果によると、近年の瀬田川では従来の優占種であったセタシジミが減少し、代わりにヒメタニシとマシジミが優占種となっている状況にあります。本年度は、試験地にふさわしい地点を選定し、着



底床試験地の設置をするとともに、定量採集やカゴ内に放流したセタシジミの成長試験を行います。今後は、これらの現地調査によって得た基礎データをもとに、来年度以降の着底床試験地を用いたより効果的な実験メニューを検討。“セタシジミが豊かに生息できる瀬田川”の実現に向けた新たなステップに反映します。

浸水被害から地域を守る内水排除施設。 《琵琶湖総合開発・内水排除事業》

琵琶 湖周辺では、春の長雨や台風の大雨などによって一部の地域で浸水被害が起こることがあります。この琵琶湖の洪水は、次の3つに大別することができます。1)琵琶湖の水位が上昇して湖辺の地域に直接、逆流して起こる浸水。2)琵琶湖に流入する河川や排水路の排水能力の不足による氾濫。これはあふれた水が田地全体を流れる洪水で、野洪水とよばれます。3)野洪水が、さらに湖辺の低位部に流下して起こる湛水被害。琵琶湖の治水には、堤防による外水(琵琶湖の水)の浸入防止と内水(河川)の効果的な処理が重要です。被害を最小限に食い止めるために、琵琶湖周辺に内水排除施設を設置しています。次号では、この施設の仕組みをご紹介します。

